



Rotary
Club of KOBE EAST

The Rotary club of Kobe East BULLETIN



神戸東ロータリークラブ会報 No.398 2022-2023 No.3

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／井元 憲生 副会長／梅田 稔 幹 事／鈴木 祐一
広報委員長／高橋 恵信 副委員長／小谷 哲也
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日



クラブ会長テーマ Wind of Smile “笑顔の風” 運ぶクラブを目指して



RI President

JENNIFER JONES
2022-2023年度国際ロータリー会長





2022-23 年度 神戸東ロータリークラブ

第 69 代会長 井元 憲生
理事

一年間たいへんお世話になりました。“69 歳”で“69 周年の神戸東ロータリークラブ”の“69 代目会長”！と親近感を持ってスタートしました井元年度も、無事にゴールテープを切ることができました。本当に周囲の皆様に支えていただき、ありがとうございました。

昨年 7 月 5 日を皮切りに、全 43 回（うち、私はメルボルン国際大会に 1 回出席）の例会、そして各種行事を進めてくることができましたのも、皆様のおかげです。理事、各委員長の皆様には、各分野で素晴らしい活動を展開していただきました。三役の鈴木幹事には、会務全般を円滑に運営していただきました。梅田副会長には、私のサポート役として常に助言や励ましをいただきました。本当にありがとうございます。そして、事あるごとにお世話になりました事務局の皆様。右も左も分からない中、三役の水先案内人となり導いてくださいましたこと、心よりお礼申し上げます。

今から約一年前、このように皆様の前で就任挨拶をさせていただきました。その中で、今年度の RI テーマ「イマジンロータリー」、地区テーマ「Let'

s Enjoy Rotary!!」を受け、神戸東ロータリークラブとして「Wind of Smile “笑顔の風” 運ぶクラブを目指して」をテーマに掲げることを発表いたしました。様々な出来事がある今の時代こそ、仲間達との親睦を深め、笑顔で過ごすことが何より重要だと考えたからでした。

この一年間を振り返りますと、スタート早々にコロナの第 7 波がやってまいりまして、例会や奉仕活動が制限されることも多々ありました。中盤以降は徐々に通常モードにシフトしてまいりましたので、様々なイベント実施にも力を入れ、無事に各委員会の活動も遂行が叶いました。回数を重ねるたびに神戸東ロータリークラブの会員同士の親睦も深まり、数々の楽しい会が開催できましたので、“笑顔の風”を吹かせることができたのではないかなと思っています。

“笑顔”をテーマに掲げた一年でしたが、会を重ねる中で大切なことに気付かされました。それは、会員同士の親睦やコミュニケーションが非常に重要であるということです。これはまさしく、ロータリークラブならではの素晴らしさとも言えますが、他業種のそれぞれのプロフェッショナルの方々が集まれる会ですので、コミュニケーションが深まるほどビジネスの話を本音で語り合えます。そこからさらに輪が広がっていくと、新しいアイデアやビジネスが生まれる。私もこんなシーンを何度も目にしました。このような関係性は他ではなかなか得られるものではありません。この本音の親睦こそ、私たちにとって必要であり、世の中に役立ち、職業奉仕にも繋がっていくものであると思います。これから先、未来のロータリークラブの在り方を考えましても、このようにより良い親睦、コミュニケーションを深めていける場であり続けてほしい、と強く感じております。

最後になりますが、今年度会長職をさせていただ

いた一年は、大変学びの多い一年でありました。少し個人的なお話をさせていただきますと、3年度前に副会長をさせていただき、昨年度は会長エレクト、今年度は会長、とコロナ禍の数年間を走ってまいりました。特に今年度は最も責任のある会長という職を担わせていただきましたが、重なるもので、プライベートでは家を建てたり、会社もコロナで大変な状況に陥ったりと、公私ともに大変でした。1つ担ぐなら、2つも3つも同じだろう！と腹をくくり全て担いで走ってまいりましたが、逆風の中でも頑張ればなんとかなるもので、大変さより、面白く勉強になった、というのが完走した今の率直な感想です。やれば色々できるじゃないか、と自信もつきました。

さて、今度は立場代わって、私の方も会長を推薦するポジションになるとお聞きしています。私から推薦された方は、断らないでくださいね！できない理由を考えるよりも、できる方法を考える方がずっと楽しい。断ったら損ですので、ぜひチャレンジして、会長の醍醐味を味わってください。

これでようやく次年度の樋口年度にバトンタッチすることができます。次年度は70周年で非常に重要な年となります。今年度は露払いとしてならしておきましたので、ぜひ一年間頑張ってください。それでは一年間本当にありがとうございました。これからの神戸東ロータリークラブの発展を祈念し、感謝の挨拶といたします。





副会長
理事
クラブ管理運営委員長
梅田 稔

皆さん一年間本当にありがとうございました。本日無事に43回目の最終例会を迎える事ができましたのも皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。本年度は井元会長、鈴木幹事と共に三役の一員として執行部でクラブ運営を担わせて頂き、本当に有意義な1年だったと感じています。お声がけ頂きました井元会長に感謝申し上げます。

自分にとっては本当に楽しくて為になる一年半だったと思いますが、クラブにとって、みなさんにとってどうだったのかなと考えた時に、もう少しクラブ管理運営委員長として各委員長様方とコミュニケーションを持つべきだったなと少し反省をしています。しかしそれ以上に出席、親睦、家族、プログラム、週報、唱歌の各委員会の皆さんが頑張っていて素晴らしいクラブ奉仕活動に繋げて頂いたのも、きっと会員の皆様にも御満足頂けたのではないかと感じております。各委員長様方にも感謝申し上げます。

あと、先日の会員親睦会でもお話ししましたが、この一年でロータリー活動にとって「楽しい」という事が本当に大事な要素だという事を実感しました。井元会長は本年度「wind of smile 笑顔の風運ぶクラブを目指して」を掲げられましたが、本当に

センターテーブルはいつも楽しく明るい感じがしました。この楽しい雰囲気を例会場全体に広げないといけないんですが、もう少し工夫が必要だったかなと反省しています。楽しいというのは飲みに行ったり、ゴルフをしたりだけでなく、楽しい雰囲気、ムードが大切かと思います。一番良いのはテーブルの数だけ井元会長がいればいいんですがそういう訳にもいきませんので、一人一人が楽しく前向きな気持ちで出席すれば笑顔の溢れる楽しい例会になるのではないかと思います。次年度は井元さんがSAAとしてwind of smileを吹かせ続けて頂けると思いますので楽しみにしています。

最後になりますが、私はこれで肩の荷が下りて気が楽になるかという決してそうではなく、コーラスの全国大会が一か月先に迫っておりかなり焦っている状態です。皆様にもご案内をさせて頂いていますが、本当に素晴らしいイベントですので一人でも多くの皆様にご参加頂いて楽しさと感動を共有して樋口年度のスタートに弾みをつけられればと思いますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

それでは、創立70周年の樋口年度が素晴らしい一年になります事を祈念いたしまして退任のご挨拶に替えさせて頂きます。一年間本当にありがとうございました。





幹事
理事 鈴木 祐一

2022年7月にスタートしました井元年度は、約3年にわたるコロナ禍を経てアフターコロナの新しい生活様式に向かい合いながら船出しました。

そこで、今年度3役は「スマイル」が大切だと考え、会長テーマに「Wind of Smile」を掲げて、笑顔で積極的に活動を楽しみ、未来を切り開く行動を興すことこそ大切だと主張しました。

つまり、親睦を楽しみながら会を開催し、そこで「笑顔の風」をふかせて、私達の地域社会に開かれツナガル奉仕活動を連鎖的に実現できるように行動計画を組み実践しました。

具体的には、楽しい親睦会、家族会、メルボルン世界大会への参加（12名が参加）、地域の子供達の第1回兵庫県親善ラグビー大会 Child Cup（認定こども園 保育園児約参加）、神戸市内のインターナショナルスクール8校と日本人学校2校（兵庫県立神戸高校、親和女子中学校・高校）による音楽交流会、養護学校生の招待ボウリング等の多様な事業を実施してきました。

一方、ロータリー財団年次寄付、ポリオ基金寄付、米山奨学金寄付、ニコニコ寄付においても目標を立てて一部は達成できました。

また、RIが提唱するDEI（diversity, equality, inclusive）運動の中で生じる可能性のあるハラスメントの対応マニュアルも制定しました。

結果的に、神戸東クラブの伝統の継承と、時代に適応した活動の創造を目指す努力を重ねてきました。今後より洗練された神戸東ロータリークラブが実現することを願い報告を締めくくります。





兵庫県外国人学校協議会と日本の中・高等学校との 音楽会交流会を開催



2023年2月25日、神戸文化ホール中ホールにおいて、2023音楽会～Treasuring Wonderful Differences “つくろう、希望をもてる世界！”～と題して兵庫県外国人学校協議会の外国人学校と日本の学校との音楽交流会を開催しました。

次世代を担う青少年、学生の皆さんに我々ロータリークラブの活動目的にある「国際理解、親睦、平和」の大切さと、中核的価値観である「多様性」への理解を一層深めることを目的に神戸東ロータリークラブ社会奉仕委員会が、この音楽会を企画し、協賛いたしました。

上記の目的を体現するため、今回の交流音楽会には、兵庫県外国人学校協議会に所属する外国人学校のほか、招待校として兵庫県立神戸高等学校・私立親和女子高等学校・親和中学校などの日本人学校を招いて音楽、文化交流会を開催しました。

新型コロナ感染拡大により、この3年の長きにわたり外国人学校間の交流も出来ない中、日本人学校を招いての交流会開催ということで、参加校の学生たち、

先生方も大変楽しみにしていたようです。出演学生数約200名、先生、父兄など観覧者約350名という大きな交流会は各学校の文化・特色を活かした唱歌、民族楽器の演奏、民族舞踊などの演目が披露され、国際色豊かな文化交流会となりました。所期の「国際理解、親睦、平和」の大切さと、中核的価値観である「多様性」への理解に繋がられたと自負しています。参加された各校の皆様、RCの関係者の皆様より“素晴らしい交流会だったよ”と好評を頂けたと思っています。

また、この奉仕事業は後日、神戸新聞と地域月刊誌KOBETTOに紹介されました。

今回の経験を活かし、今後の開催に更に工夫を凝らし、テーマである“つくろう、希望をもてる世界！”の体現に少しでも繋がりたいと夢をふくらませています。

最後に、この場を借りて2680地区ロータリー財団委員会の皆様のご理解とご支援に、当日の手伝い、応援に来て頂いた神戸東RCの多くの仲間に皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(社会奉仕委員長 鮑 悦初)





創立 69 周年・むつみ会新春合同祝賀会を開催しました



今年度の創立記念祝賀会はむつみ会新春会と合同で行いました。むつみ会の皆様には例会からご出席いただき雰囲気を感じていただきました。

参加者の内訳は会員 82 名、むつみ会 33 名、RYLA セミナー受講生 1 名、地区奨学生（タイプ 2）1 名、事務局 4 名の総勢 121 名でした。

今回も御参加いただいた方々が笑顔になれるような企画を御用意しました。

コーラス同好会、むつみ会の皆様の合唱ではじまり、各会長挨拶、乾杯のあと、お食事が進んだあとには出席委員会による皆出席表彰を行い、皆出席者を代表して木下健会員に井元会長より記念品が贈呈されました。

続いて R 財団、米山記念奨学会の寄付表彰が行われ工藤会員へ会長よりブルーストーンバッチが、尾山会員へは感謝状が贈呈されました。

その後、RYLA セミナー受講生清川彩希さんへ

終了証書、2023-2024 年度地区奨学生（タイプ 2）清原萌歌さんへは目録の授与が行われました。

そして恒例の金婚、銀婚のお祝いに移り、金婚の松下会員、横山幹夫会員、銀婚の高橋会員

各々の御夫人へ会長よりお祝いの薔薇の花束が贈呈されました。

最後にはモノマネ芸人、古賀シュウさん、むらせさんによるスペシャルステージで会を盛り上げていただき会場の皆様に笑顔の風を運んでいただきました。

そして梅田副会長の中締め、参会者全員での「手に手つないで」の合唱で楽しい会もおひらきとなりました。

ご参加の皆様そして今回の祝賀会開催にあたりご尽力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（家族委員長 芳賀 博之）





日帰り家族旅行 IN 京都を開催しました



4月23日(日)今年度の京都家族旅行は春晴れの中35名のご参加で開催することができました。

参加者の内訳は会員26名ご家族9名総勢35名でした。

今回は春の京都をゆったりとすごしていただけるような企画を御用意しました。

9年ぶりとなる有名料亭「美濃吉本店竹茂楼」にて京料理を楽しむ昼食会を行いました。

井元会長挨拶、乙守相談役の乾杯で宴がはじまり宮川町より芸舞妓、地方さん5名に来ていただき会を大いに盛り上げていただきました。

その後、京漬物の老舗「大安」でお買い物をすませ祇園へ移動しました。

令和の大改修を終え新開場となった祇園甲部歌舞

練場で春の風物詩「都をどり」を観覧し祇園芸舞妓の艶やかな舞を堪能しました。

そしてバスで帰神、日帰り旅行はおひらきとなりました。

当日はお天気にも恵まれ、また諸々手配いただきました香山会員の段取りのおかげもあり皆様が終始笑顔で過ごしていただけたことに安堵しました。ご参加の皆様本当にありがとうございました。

そして今回が家族委員会としては今年度最後の事業となります。

これまでご協力いただきました全ての皆様に感謝し御礼申し上げます。

(家族委員長 芳賀 博之)





西村 公志

—大同通運—

新人会員の西村公志（にしむらこうじ）と申します。入会は昨年 2022 年の 9 月、角田先生と西原社長さまからのご紹介でこの格式高い伝統ある「神戸東ロータリークラブ」への入会を認めていただきました。

若い頃から神戸東ロータリークラブのことはお聞きしており、老年になるまでには・・・と思っておりましたので、昨年須藤社長さまよりご連絡を頂戴する際は戸惑いながらも、嬉しい入会手続きとなりました。

現在年齢は 49 歳で、皆さまもご存知の太一会員の次男として昭和 48 年 9 月 22 日にこの神戸で生まれました。

兄、姉、私の三人兄弟で、私は末っ子としてそれなりに甘やかされつつも普通に育ちました。

現在の家族構成はまだ小さい娘が 2 人、そして妻と私の 4 人家族で、昔から好きだった御影で楽しく暮らしております。

このコロナ禍では犬 1 匹と猫 2 匹も仲間入りし、またさらに賑やかになりました。

次に「特技」とは呼べない「資格・免許」に近いお話をさせていただきます。

どれも中途半端なもので恥ずかしいですが、3 つほどございます。

1 つ目は大学卒業後アメリカ留学に行かせていただいたことから、おかげさまでほんの少し英語が喋れるようになったこと、2 つ目は若い頃に観たイーजीライダーに憧れた結果大きなバイクに乗れるようになったこと、そして 3 つ目として近年は船を操舵することができるようになりました。

次は「趣味」というより、今やれていないことも含めて 5 つほど「好きなこと」をお話しさせていただきます。

1 つ目は【映画鑑賞】です。

語学学習の一環として映画を観あさったことがきっかけで、気に入った映画やシーンは何十回でも観るようになりました。

2 つ目は【ウィンタースポーツ】で、特に「スキー」が長く続いており、シアトル留学時代の楽しみの 1 つでもありました。

3 つ目は【魚釣り】ですが、魚が釣れなくても楽しい「フライフィッシング」は特に好きです。

4 つ目の【家庭菜園】は果物系が好きで、可愛く華奢な青葉が力強く土から出て来る時などは心がウキウキと踊るのを感じます。

最後 5 つ目は【キャンプ】です。

昨年の夏からキャンプ用品集めは着々と進んでおりますが、半年経った今でもまだろくにキャンプをしたことがありません。

仕事に於きましては、昨年 4 月より大同通運株式会社という尼崎に本社を置く小さな物流会社で代表をさせていただいておりますが、その前は神戸トヨペット株式会社で 24 年ほどお仕事をさせていただきました。

その中で 3 年半ほどありました、トヨタ自動車株式会社での研修期間は格別の学びとなりました。

昼夜を問わず苦楽を共にした研修仲間達との「強い絆」や、その中で培った「仕事のものさし」は今でもこれからも私の宝物です。

最後に、人生半人前の新米ロータリアンとして 4 つ大切にしたいことがあります。

【学ぶ】

この神戸東ロータリークラブの先輩の皆さまから、そして昨年ご入会された同期の皆さまからも、マナーや人生の機微も含めて色々なことを少しずつでも学んで行きたいと思えます。

【貢献する】

甘えて自分が学ぶだけではなく、「貢献」という意味で私も何か教え合うことができるようになって行きたいと考えております。

【社業に励む】

有難くも今日の前にある社業に励み、それを極めて行くことが「貢献」を可能にする種蒔きであり、最も大切なことと考えております。

【楽しむ】

そして以上の 3 つを永く続けるために、楽しむというのをこの神戸東ロータリークラブで実践して参りたいと思えます。

ふつつかな会員ですが、末永くご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



福田 大介
ーワールドトラストー

私は1975年10月16日に、神戸市長田区で福田家の長男として生まれました。

三人兄弟で、弟と妹がいます。

私の社会人としての生活で選んだ仕事が、現在に至る、神戸の運送会社でした。震災後でしたので、建物や道路も復旧しなかったため、大阪でほとんどトラックに住み込み状態で仕事をしていました。帰宅しても住んでいたアパートは、お風呂もなかったので高校時代の知人の家で、お風呂や食事をご馳走になったりと、大変お世話になったのが、今現在の妻です。妻とは、平成8年に結婚しまして、平成9年の7月に、第一子の男子、凌丞が誕生しました。

翌年の平成10年の8月に、二人目の女の子、雅が生まれ、家族四人となりました。

その後、私が23歳になったころ、“潰瘍性大腸炎”という難病になってしまいました。

潰瘍性大腸炎とは、安倍元総理と同じ病気で、症状としましては大腸の粘膜に炎症が生じ、粘膜が荒れてびらんや潰瘍などの病変が形成されるようになり、下痢や血便、お腹の痛みなどの症状を引き起こし、重症化すると発熱や体重減少や貧血、めまいなどが現れます。

私も重症化し、2度入院することになりました。

現代医学ではまだ完治しないので、薬を飲みながら生活習慣に気を付けて日々過ごしております。そのため、お付き合い程度でしたが、お酒も飲んでいた

のですが24歳でお酒とタバコを辞めることにしました。現在でも続けておりますので、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

30歳の時、子供たちの情操教育の為、ホストファミリーを始めました。台湾、中国、香港、タイ、ロシア、イタリア、ブラジル、チェコなど、色々な国から来てくれました。その中でも印象深かったのは、タイから来た13歳の女の子でした。彼女は日本が大好きで、九州大学に進学し、現在は某アイスクリームの大手企業で新商品の開発をしています。

平成24年1月11日に、株式会社ワールドトランスを開業いたしました。

事業内容は、運送会社の中でもドレージ輸送といい、主に海外から港に上がったコンテナ入りの荷物を、コンテナごと陸上輸送するお仕事です。

長男は高校卒業後に某運動会社へ就職し、結婚をしました。2人の子供にも恵まれ、私をおじいちゃんにしてくれました。本当に孫はかわいいし、パワーを与えてくれる。そんな宝物のような存在です。

長女は薬学部に進学し、勉強の日々を過ごしています。

ある日、長男が「親父の会社で働かせて欲しい。もっともっと成長していきたい。自分にも協力させてください。」と言ってきました。まさか、自分の息子がそんな気持ちでいてくれたことに、心が震えました。

息子から言われた、「親父のようになりたい。」その言葉を大切に、どんな困難でもあきらめずやっという強くおもしろい、次のステップへ行くために、株式会社ワールドラインと株式会社RSKロジスティクスの2社を立ち上げました。ワールドラインは貿易取引にかかわる業務のお手伝いを、RSKロジスティクスは国内貨物の輸送のお手伝い、3社で総合物流サービスを提供していこうと考えました。

当社では、物流全般を担っています。内容としましては、コンテナドレージ、通関などの書類の手配、梱包業務や倉庫作業の手配、国内貨物4トン車、10トン車、特大貨物など、あらゆる手配を可能としております。

安心、丁寧、安全をモットーに貿易取引のことなら私に、ぜひご相談いただければと思います。



大井 竜介 —大和証券神戸支店—

みなさまこんにちは。大井竜介と申します。

私は昨年5月24日に、角田様と大澤様にご紹介を頂いて、この神戸東ロータリークラブに入会させていただきました。

伝統と格式のある神戸東ロータリークラブの一員になれましたことを、大変誇りに感じております。誠にありがとうございます。

私は、昭和50年6月29日生まれのかに座のA型で、今年で48歳になります。

私の名前の由来は、父親が作家の芥川龍之介が好きであったことから、竜介になったとのこと。妹が二人おり、3人兄弟の長男です。

東京都杉並区で生まれましたが、父親が転勤族でしたので、小学校は札幌など、何度も引っ越しと転校を繰り返しました。

私が大学生の時ですが、父親は西宮市に単身赴任をしており、阪神淡路大震災を経験しています。その両親も、現在は埼玉県に居住しております。

中学では軟式テニス部で部長を務め、高校はスキー部で、回転や大回転などの競技スキーをしていました。

大学は、千葉大学法政経学部、経済学科に在席し、テニスとスキーのサークルで友人達と楽しく過ごしました。

また、財務諸表のゼミに入ったことで金融業界に興味を持つようになり、平成10年に、大和証券に入社することとなりました。

私が就職活動を行っていた平成9年は、「三洋証券」

「北海道拓殖銀行」が経営破綻し、当時の4大証券の一角「山一証券」が自主廃業に追い込まれた年です。

バブル経済の崩壊以降株価が大幅に値下がりし、不動産価格の下落も続いたことなどから金融機関は巨額の不良債権を抱えました。

大手銀行などは軒並み赤字に転落し、翌年の平成10年、私が大和証券に入社した年には、長銀＝日本長期信用銀行や日債銀＝日本債権信用銀行が破綻するなど、日本の金融システムが根底から揺らいでいた時期でした。

証券会社に入社すると決めた私に対し、家族や友人たちから大変心配されたことを今でも覚えています。

入社後は千葉支店で7年間営業活動をし、その後1年間、早稲田大学大学院の金融研究科に通いました。

その後は、大阪支店で5年、名古屋支店で3年の営業業務を経て、東京本社営業サポート部にて、全国の支店営業の支援や指導業務を行いました。

そして、静岡県の沼津支店長を2年半、東京の日比谷支店長を2年、本店の営業部長を2年務めたのち、昨年の4月より、神戸支店長として勤務しています。

私の家族ですが、妻と中学2年生の長男、小学3年生の次男の4人家族で、東京都三鷹市というところに住んでおります。

JR中央線の三鷹駅が最寄駅で、井の頭公園やICU(国際基督教大学)などで有名です。私自身は単身赴任で、神戸市中央区の海岸通りに住んでおり、ビーフンで有名なケンミン食品の本社、レストランが隣にあります。

私が所属する大和証券株式会社神戸支店は、昭和18年(1943年)にでき、今年で80周年になります。私は44代目の支店長として、約80名の職員と共に仕事をしております。

店舗は、一昨年の4月に、旧居留地から阪急三宮駅ビルに移転いたしました。

兵庫県内には、姫路支店、明石支店、芦屋営業所、西宮支店、宝塚営業所、尼崎支店、塚口営業所があり、神戸支店を含めて計8か所の拠点があります。

神戸は海と山に育まれてきた、自然豊かな大都市です。

その神戸に携わる方全てが幸せになれるように、これからもできることを精一杯尽力する所存です。

これからも末永くよろしく願いいたします。



伴 裕美

—ソーシャルアドバンサー—

神戸東ロータリークラブの皆様、改めて、私のような若輩者を迎え入れて下さり、またこのように自己紹介の機会を賜り心より感謝申し上げます。

入会させて頂きました際、多くの先輩方から「大家族のようなものだよ」と仰って頂いたことを思い出しました。そのお一人が山崎会員です。

家族しか知らないことは何かと考え、本日は「三つ子の魂百まで」の私の三つ子を中心に、お恥ずかしながら自己紹介させて頂きたく存じます。

私は昭和50年3月3日生まれの年女、三姉妹の末っ子として生まれました。生まれも育ちも生粋の神戸っ子です。

三つ子の魂1つ目は「人が大好き」です。幼い頃から人と目が合うだけでキャッキョと満面に笑い、バスを待つバス停では見知らぬ人にいつも抱っこされていたと聞いております。

2つ目は「研究熱心」。毎朝、幼稚園に通う間ずっと続いたその泥団子づくり研究は、如何にきめ細やかなサラ砂を作れるかが決め手でした。

3つ目は「集中力」。外へ遊びに出ても夢中に遊び、手元が見えなくなるまで周りが暗くなっていることに気が付かない…「カラスさんでも暗くなる前に帰っていくのに、どうして貴女は帰ってこれないの?」というも叱られました。

4つ目「天真爛漫」、5つ目「思い切りの良さ」、最後に「課題解決能力」です。

進学は、薬剤師を目指し武庫川女子高等学校へ進みました。そこで人生初めての挫折を味わいます。憧れていたバレーボール部に恐れ知らずも初心者で入部した私は、早朝からグラウンドでタイヤを引き、3キロを走り、走り終わったら体育館の雑巾がけという日々を続けプレイヤーとしての技術も身につけぬまま急性肝炎に。病院へ行くも休養するようにとのことで薬の処方はなく、毎日母が4時間かけておちょ一杯にまで煮詰めてくれたシジミ汁を半年飲んで回復を果たしました。薬剤師を目指していた私には衝撃的な出来事に、いのちを大切に生きるためには「食」だと思い直し、良妻賢母の育成で代表的な武庫川女子大学の家政学部食物栄養学科へ進路を変更しました。

生きていく道は、社会の最小単位である家族の英気を養う場所「家」を扱う仕事をしたいと考え、在学中に宅建と簿記2級を取得し就職に備えましたが、時代は就職氷河期。ここは焦っても仕方がないと思い切って休学しアルバイトをしながら2年間で数十か国を旅しました。新疆ウイグル自治区のバザールで拉致されそうになるなど怖い経験もありましたが、社会へ出る前に世界を体験できたことは今のこの私の価値観の礎となっている気がいたします。

その他に私の特徴があると言えば、呼吸と感情と身体の有機的なつながりを研究するため、当時の大阪大学教授の元で約9年間、世界二大演技法を徹底訓練したことです。これはとても楽しく興味深い経験で、現職のカウンセリングや教育支援などでは大変役に立っています。

そして今年の後半から、これまでの経験やご縁つながりの成果として、国連のSDGs 人的資本正式認定事業であるストレスマネジメント教育（メンタル・睡眠・食・運動・コミュニケーションの5要素構成）を推進していく予定です。

私が両親から受け継いだこの命、仕事やこの神戸東ロータリークラブでの奉仕活動を通じて活かして参りたく存じます。

最後に。どうか皆様、今の皆様のお姿がイメージできるお写真に、ROSTERのお写真を更新いただきたく何卒お願い申し上げます。

今後共どうぞよろしく願いいたします。



入船 正 —服部設備—

2023年12月に入会させて頂きました入船正です。
出身地は大阪の河内地方にある柏原市です。
家族は、妻と小学生の娘2人の4人家族です。
中学校は地元の公立中学校に行き、高校は大阪の住吉区にある私立浪速高校に進学いたしました。
大学は京都産業大学へ進学いたしました。
私は両親の影響で小学生の頃に硬式テニスをはじめ、高校ではインターハイにも出場させていただきました。
大学では京都産業大学体育会公式庭球部（硬式テニス）に所属していました。
2回生で足首を度々痛め、残念ながら選手としての道は諦め、それでもテニスは好きでしたので、プレーする側ではなく、育成する立場としてテニスコーチになりました。
テニスは現在も趣味で続けており、芦屋国際ローンテニスクラブ会員に所属しております。
休日は芦屋ローンや友人たちとテニスを楽しむこともあります。
また、ランニングや登山を趣味としており、先日は長女と六甲山山頂まで登山してきました。
また旅行先でも登山することもあり、家族で日本最南端の日本新名山である石垣島のオモト岳に登ってきました。
仕事は妻の両親の会社の2代目として服部設備に所属しております。
もとは電気屋からスタートした会社ですが、電気だけでは生き残れないと考えた社長の思いから、現在は建築から電気・ガス・水道まで幅広く、建物に関

する設備の新設・修繕や点検を行っております。また、美術館の燻蒸庫工事など特殊な技術工事も手掛けております。

資格は高圧の電気に携わる1種電気工事士はもちろん、建築や管工事の施工管理技士、上下水道にかかわる資格など、多岐にわたる資格を取得しています。

会社の場所は、東灘区の西岡本にございます。現在の代表が初代で、平成2年に創業、現在創業35年になります。

主な業務としましては、電気工事、管工事、建築工事です。

電気工事の中で、多くの仕事量を占めているのが宅内配線工事です。

また、特殊な電気工事としまして、キュービクルといった高圧で受電するための設備も手がけています。

最近の工事では、このキュービクル内の設備が法廷耐用を超過し老朽化が進み、関西電気保安協会等から指摘を受けたものについての更新工事などを行っております。

管工事では個人宅やマンションの仕事が多く、トイレや洗面、浴室の更新、給湯機の更新、水道やトイレの急な水漏れ等幅広く対応しています。

またマンションやビル、工場の受水槽の新設や更新、それに付随する点検作業なども行っております。

建築工事では建物の新築、リフォームなどを手掛けております。

生活スタイルの変化に応じたリフォームも多数手掛けております。

外回りのエクステリアや植樹のお手入れなどのご相談もお受けしております。

その他の特殊な工事として、美術館に設置の燻蒸庫という装置の工事を行っています。

美術館では、大切な美術品を害虫やカビなどから守るために殺菌を行うのですが、その殺菌装置です。

京都国立博物館をはじめとして、福井県、奈良県、和歌山県、愛媛県、福岡県など全国各地の美術館や博物館で施工しています。

弊社では個人宅からマンションや工場など、電気、水道、ガス、建築と幅広く皆様の生活に密着して施工を行っております。

ロータリークラブに入会し会員の皆様から色々な話を伺うことができ、私も人生の幅を広げることができたと思っております。

公私ともども、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



伊藤 正
—ムジカヴィーヴァー

音楽教室経営、声楽家の伊藤正です。

1959年3月15日生まれ 64歳 B型魚座。

本日は自己紹介のお時間いただきまして誠にありがとうございます。

私は神戸東灘ロータリークラブに所属いたしておりましたが、例会開催曜日の月曜日の仕事が、コロナの影響で時間が拡大しました関係で出席できなくなりました。そこで2年間休会いたしました。その後神戸東に移籍のアドバイスもらいまして入会させていただきました。

この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて私は神戸生まれですが、舞子、芦屋、御影と引越した関係で、幼稚園は愛徳幼稚園、小学校低学年は芦屋岩園小学校、三年生からは御影北小学校、御影中学校、赤塚山高等学校に通いました。

高校に入学して大学への進学にあたり、勉強が好きでない事を感じとった両親より、好きな事をしたらとアドバイスもらい、音楽の道に進むことを決めました。父は神戸市役所勤めでしたが、音楽が好きで私の幼少期から家でクラシック音楽が流れて、音楽会にも連れて行かれた思い出もあります。

そこで何故、声楽を選んだかと言いますと、やはり高校からスタートして楽器（ピアノ、バイオリンな専

攻に進むのは無理と判断したからです。

大阪音楽大学、大学院に進学した時に神戸東灘ロータリークラブの例会でのピアノを担当させてもらう機会をもらったのが、ロータリーとの出会いです。その後ロータリー財団奨学生としてイタリア、ミラノに留学いたします。この奨学生の試験はなかなか厳しく、イタリアの大学への入学が奨学生としての条件でしたので、その部分を面接で問われました。結果3度の受験でやっと渡伊が叶いました。3年の留学の間はミラノでのロータリアンとの交流もありましたが、今思えば語学力が未熟で充分とはいえませんでした。帰国後は大学での非常勤講師の仕事につき、また松下衛会員にお世話になりながら学友会でコンサートを3度出演させていただきました。これまで多くの方々に助けてもらいながら順調な人生ではありましたが、その中で結婚、離婚、2度の心臓カテーテル処置などもありました。

今は健康に留意しながら歩んでおります。

仕事は2003年に開設いたしました、摂津本山のスタジオでの声楽講座、神戸文化振興財団からの依頼による各区文化センターでの講座、神戸文化ホールでの第九公演（神田孝平会員、バリトン団員）の指導などを担当させて頂いております。また声楽家としての活動も並行して行っております。

この歳になると何とか自分しか出来ない事を見つけて演奏に活かしていこうと、弾き語りのYouTube制作に取り組んでおります。

座右の銘としては、野村克也氏の「財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺すを上とする」です。

財も仕事め遺せておりませんし、クラシック音楽を取り巻く環境は厳しいですが、後輩の同志と共にもうひと頑張りしながら、生の音楽の素晴らしさを共有できればと思っております。

これからもよろしく願い申し上げます。

本日はご清聴ありがとうございました。



続木 良平 —アール・シー—

1978年9月7日に神戸で生まれました。生後間もなく芦屋へ引っ越し、以後就職するまで芦屋に在住しておりました。

高校までは芦屋市内の学校に通い、大学進学後は車とバイクにのめり込みました。好きが高じて学生生活の間に車1台、バイク1台を六甲山で廃車にしてしまい、若気の至りを猛省するとともに、体が無事であったことを今でも本当に感謝しております。

大学生活最後に、アムトラックと呼ばれる列車でアメリカ各地を一人で巡りました。中でも3泊4日、数千キロを一般座席で過ごしたオーランド-ロサンゼルス間は、アメリカの広大さを実感した貴重な経験でした。当時はテロの発生前で、在りし日のワールドトレードセンタービルやホワイトハウス、ペンタゴンなどの建物内部を観光できたことは懐かしい思い出です。

趣味は、お酒を呑むことに加え、ジムに通ったり、麻雀、囲碁、テニスの会に参加したりして楽しんでおります。この度、当クラブの野球部も入会させていただきました。

大学卒業後、2001年にシステムエンジニアとして日本電気株式会社（NEC）に就職し、航空自衛隊のシステム構築や、企業向けのシステム構築に携わりました。また、ITの有資格者が集う会である「日本ITストラテジスト協会」に入会し、そこで山本裕計さんとのご縁をいただきました。その繋がりもあって、次

年度地区小委員会にご一緒させていただくことになっております。その後2012年に会計事務所へ転職、2015年に株式会社アール・シーに入社、現在に至っております。

過去の経歴の中でも、私にとって特に思い出深い航空自衛隊の2つのシステムについてご紹介させていただきます。1つ目は航空総隊と呼ばれる部隊の那覇基地へのシステム導入です。朝早くから深夜まで、昼も夜も分からない地下のサーバー室で作業する毎日、思い描いていたものとは異なるとても厳しい現場でした。ただ、その時の経験は今の自分の糧となっております。

2つ目は航空幕僚監部と呼ばれる組織向けのシステム設計です。何千ページもの設計書を作成し、お客様にレビューしていただくのですが、毎回大量の付箋が貼られて返却される設計書を見て、申し訳なさを感じると共に、国を支えるお客様の能力の高さに驚いたことが今でも記憶に残っております。

最後に、私の仕事について紹介させていただきます。会社名は株式会社アール・シーと申します。英語表記はロータリークラブと同様のRCであり、これも何かのご縁と感じております。事業はビルメンテナンス業を営んでおり、オフィスビルやマンションなどの清掃、設備管理、また特定建築物の管理などをおこなっております。その他、過去の経験を生かし社内のIT化や他社のITコンサルティングにも取り組んでおります。

この度は皆さまのお時間を拝借してこのような機会を頂戴し、厚く御礼申し上げます。入会して半年経ちましたが、本当に学ぶことも多く、今後ともご指導いただければ幸いです。また「顔がこわい」とよく言われますが、それをずっと言われてきた人生でございまして、これでも「以前よりは優しい顔つきになった」つもりで日々を過ごしております。「根はやさしい人間だ」と自分に言い聞かせて、少しでもやさしい顔になるよう日々努力しております。あたたかく見守っていただき、また気軽に話しかけていただければ本当に嬉しく思います、という私の心の声をお伝えしまして、自己紹介を締めさせていただきます。

本日はご清聴ありがとうございました。



中村 芳信
—新興金型工業—

私は1973年8月23日に神戸市長田区で中村家の3男として生まれました。

兄弟は、兄が2人、姉が2人います。

子供の頃より、創業者である父親に連れられ、タイヤ金型の製造現場を見て育ちました。

父親は2010年に亡くなりましたが、仕事に対して、プライベートに対しても非常に情熱的でエネルギッシュな父親でした。

私は今でも父親を敬愛しており、父親の背中を追いかけて、そしていつの日か追い越し、父親の誇りになる息子を目指し、日々精進しております。

ここで私の経歴をご紹介します。

元々、自分の会社を作りたいというビジョンがあったので、学歴や年齢に関係なく完全実力主義で評判のあった光通信に入社しました。

光通信では、四六時中ガムシャラに仕事を行い、その成果が認められ過去最短・最年少でエリアマネージャーの地位を頂く事になりました。

その後、一旦、新興金型工業に専務として戻り、大型トラックに乗り顧客先を走り回る日々を送りました。この時、顧客からの要求に対しては「無理」と言う事は決して言わず、「何とかできる」と顧客の要求に応じて行く事で、顧客より信頼を得て受注拡大につなげて行きました。その後、諸事情により一旦新興金型工業を離れ、IT分野で起業しました。

ここでも、光通信時代に培った営業力と実行力で順調に業績を伸ばし順風満帆でしたが、

2009年、社長である父親の体調悪化により、新興

金型工業へ復帰し2010年には社長に就任致しました。

新興金型工業では、顧客のニーズを先取りして行く上で、新たに営業部門・開発部門を新設し、顧客の困りごとに対し、提案型営業の基盤を作り上げました。

2018年には、大阪公立大学（旧大阪市立大学）の大学院都市経営研究科に入学しました。

ここでは、日本のモノづくりを再生化させて行くという信念を基に、現在の大企業からの受動型受注の仕組みを、如何に中小企業からの発信型受注に変えるかという勉強を行い、

現在、発信型の営業戦略を練り進めております。

現在の新興金型グループですが、設計・開発を行う「新興エンジニアリング」、顧客へ製品を搬送する物流部門として「新興物流」を設立。

2013年には、新興国であるタイに進出を行い、SHINKO MOLD INDUSTRIAL (THAULAND) を設立。

2022年には、タイのIWAI MANUFACTURING (THAILAND) を設立し、グローバル企業としてグループの拡大を行っております。

現在の取引先ですが、国内タイヤ大手4社（ブリヂストン、住友ゴム、横浜ゴム、TOYO TIRE）を始め、三菱重工業、クボタなど、国内有数の大企業と直接取引を行っております。

最後に今後の事業展望として、金型業界も海外勢とのコスト競争が激化しており、新作金型のコストに関してはどうしても中国をはじめとする海外勢力が優位な状況となっています。

そこで、我々新興金型工業は、長年培った技術面のノウハウ・強み、国内得意先からの信頼を武器に、「新規金型の製作」から「金型修理・改造」へシフトしており、金型メーカーとしては初となる、サブスクリプション方式によるメンテナンスなど、随時新たな提案を実施しております。

現在、国内得意先と連携を深め、「修理だけ行う」金型メーカーから、その一歩、二歩先を行き、「得意先工場の生産性を向上させる」金型メーカー、顧客の「満足」から「感動」に変える金型メーカーを目指し、新興金型工業のアドバンテージとして根付かせる取組みを進めております。

金属加工に関してお困りごと、ご用命があれば、是非ご相談頂ければと思います。



メルボルン国際大会に参加しました



『ロータリー会員として、私たちは地域社会や世界中に持続的な変化をもたらすために、つながりを活用しています。

2023年5月27～31日にオーストラリア、ビクトリア州メルボルンで開催される2023年ロータリー国際大会で次の出来事を想像するチャンスをお見逃しなく！ぜひご参加ください！

国際大会では、**・新しい友情を育み、古い友情を強める**・ロータリーの経験を分かち合いする方法をさらに学ぶという目的があり、登録の家族からインスピレーションを得て、今すぐお支払いください8月末日まで利用可能なベストレートをご利用ください。ロータリーへの情熱を強めるこの機会をお見逃しなく。』と言う国際大会への文言で参加して参りました。

国際大会オープニングセレモニーでは1万人強が参加し、各国の国旗入場とともにスピーチとメイン画面にも国旗が映し出され、参加国の面々が声を張り上げていました。

特にフィリピン、中国、台湾、韓国、日本の声が大きかったので、アジア地区が熱心なのが伝わり、ロシアは静まりウクライナは全員声を上げて歓迎ムードでした。

メインスピーチではノーベル平和賞受賞されたレイ

マ・ボウイ（リベリア）さんが、女兒のエンパワーメントについてスピーチされ、他に、ナキーヤ・ドラマニ・サム（10歳の気候変動活動家で詩人）、カリ・アイナ・アイク（国連の持続可能な環境開発目標に貢献）、シヤンタル・ヴァレ（バスケットボール史上初ヘッドコーチ兼GMの女性）などのスピーチにより、今回の国際大会が女性のエンパワーメント、平和、気候変動をテーマとされている事が伝わりました。

参加頂いた方々には色々不出来な点も在りましたがご容赦頂き、12名で楽しく過ごさせて頂きありがとうございました。

又、出発まで国際大会に参加する為の日取りや行動が全然解らず、香山会員が基礎的な事を教えて下さいました。現地ガイドの件では須藤会員にもお世話になりありがとうございました。

入会させて頂き、5年経つにもかかわらず、2680地区の中の神戸東RCの知識だけで改めてロータリーとは？ロータリー組織とは？RIとは？国際大会とは？

どれも臆気にしか理解しておらず、考えを改める機会を頂きました。感謝です。

（国際奉仕委員長 光葉 應宏）





アシックスのスポーツミュージアムに職場訪問してきました



2023年6月13日（火）、職業奉仕委員会のメイン事業『職場訪問』に行き参りました。訪問先は、(株)アシックスです。

頭初の構想では、神戸市西区のスポーツ工学研究所、中央区ポートアイランドのスポーツミュージアムの2施設訪問の計画でしたが、まだコロナ渦という事で、残念ながら、スポーツミュージアムのみの訪問となりました。

早速ですが、『スポーツミュージアム』がどういう施設かの説明をさせていただきます。

まずは、2階に上がり、シアタールームにて、約10分間の映像で、アシックスの歴史を学びます。そしてパネルストリートがあり、創業～現在までの史実とその時代を象徴する各界のスポーツ選手が使用していたシューズ、ウェア、用具等とその選手達のプロフィールと併せて見学します。

1階に降り、様々な競技種目のシューズ等を実際に触れられるコーナーがあり、感動を得る事ができます。最後にバーチャルビジョンでは、100m走、テニスの高速サーブ、野球投手の170kmの投球が体験できます。

正にアシックスの企業理念、歴史、活動を通じて、アスリートのパフォーマンスを体感し、競技シューズ、ウェア、用具を見て、触って、知る事で、素晴らしさを感じる事ができる施設です。

次に、アシックス誕生の由来を紹介いたします。

当企業は、スポーツウェア、ネットを扱う寺西光治氏のジティオ(株)、ニットウェアを扱う白井一馬氏のジェレンク(株)、そして、シューズのオニツカブランドで有名な鬼塚喜八郎氏の(株)オニツカ、この3社が対等合併して、1977年7月21日『ASICS』、資本金26億2千900万円、売上400億円、従業員数1千200人のスポーツ用品業界では、ミズノ、デサントとほぼ肩を並べるメーカーとして誕生しました。

社名の由来ですが、Anima Sana In corpore Sano（アンマ・サーナ・イン・コルポレ・サー）の頭文字を取って『ASICS』となったそうです。ラテン語で「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」という意味です。

「外資系の会社」とよく間違われ、3社が合併した会社なので「3人のオーナーが集まり足が6本なので、アシックス」と言われたりしたのは、参ったそうです。

自分でもよく勉強していると思いますが、上記の内容は、日本経済新聞に1990年7月1日～7月31日まで連載された“鬼塚喜八郎「私の履歴書」”の中から抽出したものです。

最後に、職場訪問開催にあたり、井元会長がアシックス社長へアピールしてくださり、お力添えいただいたおかげで、訪問を実現する事ができました。感謝しております。

ご参加くださった30人の会員様におきましても、お忙しい中ご参加いただき、本当にありがとうございました。私自身も、とても良い経験となりました。

簡単ではございますが、アシックス職場訪問記をこれで終わらせていただきたいと思います。

（職業奉仕委員長 林 伯正）





神戸を一望する北野クラブ ソラにて 第3回会員親睦会を開催しました



6月20日に神戸を一望する北野クラブソラにて、第3回会員親睦会を64名のご参加で実施いたしました。

井元会長のユーモア溢れるご挨拶と角田会員による乾杯のお言葉から和やかにスタートした親睦会。おなじみとなった伴会員による素敵な司会とともに会員同士の親睦と美味しい料理を楽しみました。

お食事終盤のアトラクションは、井元年度らしく華やかな親睦会にしたいと考えて、伊藤正会員にサプライズで声楽パフォーマンスをしていただくことを相談しました。当日は皆さんの会話が盛り上がる中、気付かれなようにそっとピアノの演奏をスタ

ート。欠席だったはずの伊藤会員が登場して一気に歌い始めるという流れです。ピアノを含む総勢8名の圧巻のパフォーマンスで会場全体を大いに盛り上げていただき、とても素晴らしいアトラクションになりました(^^)。そして新入会員自己紹介の後、ど定番「手に手」で締めくくり会を終了しました。

今年度は初めての委員長の大役をいただきましたが、三役をはじめ、たくさんの先輩の皆様、親睦委員の皆様、事務局の皆様のおかげで無事に全ての親睦会を行うことができました。誠にありがとうございました！！

(親睦委員長 森本 光一)





▲ 2月21日「どうするコロナ、どうなるコロナ、
いよいよ最終章」
澤田 正 樹 会員



▲ 3月28日「選択的夫婦別姓について」
弁護士 石橋 伸子 氏



▲ 3月7日「極東開発工業の歩みと社会貢献」
極東開発工業株式会社 総務部 部長 藤 本 丈 司 氏



▲ 4月4日「コロナとの3年間、兵庫県医師会の活動、
そしてこれから」
一般社団法人 兵庫県医師会 会長 八 田 昌 樹 氏



▲ 3月14日「テクノロジーで未来都市をアップデートする/
未来コモンズ」
XR CITY LAB CED 浅 井 宣 通 氏



▲ 4月18日「ロータリー学友の定義
Definition of Rotary Alumni」
松 下 衛 会員



▲ 5月9日「ロータリークラブは職業奉仕クラブである」
角田 嘉 宏 会 員



▲ 5月30日「全日本ロータリークラブ親睦合唱祭について」
全日本ロータリークラブ親睦合唱祭準備委員長
横山 幹 夫 会 員



▲ 5月16日「終活 言いたいけど言えない
聞きたいけど聞けない」
尾山 宜 道 会 員



▲ 6月13日「安全運転について」
(有) ネイキッドコーポレイション
特定非営利活動法人運転事故防止推進協議会
代表 山下 裕 隆 氏



▲ 5月23日「近頃のロータリー」
須藤 雄 二 会 員



余韻会 (俳句同好会)

令和五年二月十四日

ホテルオークラ神戸 桜の間

森閑の真夜に氷柱の育ちゆく

奥田 好子

山寺の氷柱の長さ競ふ軒

角田 伯堂

身震ひの氷柱の朝の犬散歩

塚本 宗哲

バレンタインブランドチョコは自分用

松谷 泰山

滝氷柱周りの時間止めてをり

吉井 聖倅

氷柱手にはしやぎ回る子弾む声

神田 淡京

余韻会 (俳句同好会)

令和五年三月二十八日

ホテルオークラ神戸 桜の間

磯の香を焦がさぬやうに目刺焼く

奥田 好子

何もかも見て来た様な目刺の眼

角田 伯堂

吹く風の匂ひ春めく北野坂

則岡 弘士

又一つ忘れ物して春うらら

塚本 宗哲

春霞湖面に浮かぶ竹生島

松谷 泰山

目刺焼き呼び声要らず人集め

吉井 聖倅

今宵こそ目刺をあてに友と酌む

神田 淡京

コロナ禍の収束間近春めきぬ

小林 一也

余韻会 (俳句同好会)

令和五年四月二十五日

ホテルオークラ神戸 桜の間

長閑なり無人駅舎の猫の耳

奥田 好子

苗床のさみどり映ゆる山田かな

角田 伯堂

古池に折重なりて蝌蚪の群れ

則岡 弘士

長閑なる朱雀大路の踏切線

塚本 宗哲

新緑の八坂道ゆく舞妓はん

松谷 泰山

老僧の揃はぬ読経のどけしや

吉井 聖倅

ほろ酔ひで都をどりを楽しめり

神田 淡京

のどけしやメリケンパークの人力車

小林 一也

余韻会 (俳句同好会)

令和五年五月二十三日

ホテルオークラ神戸 桜の間

葉桜の山門抜けて大伽藍

奥田 好子

筍の出でしところに驚きぬ

角田 伯堂

初孫の隣の家に鯉幟

則岡 弘士

時過ぎて葉桜の下同窓会

塚本 宗哲

葉桜や過疎の学舎に転校生

吉井 聖倅

筍や茹でる脱がすに時間かけ

神田 淡京

葉桜や腕枕して眺めをり

小林 一也

食卓に筍ご飯笑顔の輪

伊藤 正



絵と文 三原 孝公

油彩「南イタリア アマルフィ海岸」

2019年9月、神戸東クラブシルクロード探検隊は最終ゴールの地、ローマに無事到達しました。この絵画は途中ナポリから訪れたアマルフィ海岸です。

CONTENTS

| | |
|----------------|----|
| 三役退任挨拶 | 1 |
| 兵庫県外国人学校協議会交流会 | 5 |
| 創立記念例会 | 7 |
| 家族旅行 | 9 |
| 新会員自己紹介 | 11 |
| 国際大会 | 19 |
| 職場訪問 | 21 |
| 第3回会員親睦会 | 23 |
| 例会スナップ | 25 |
| 余韻会 | 27 |

編集後記

2022-2023年度 井元年度 第3号の会報は、新型コロナウイルスが落ち着いてきたこともあり、多くの活動報告を掲載する事が出来ました。皆さんにおかれましては神戸東ロータリークラブ会員として、様々な奉仕・親睦、そして同好会などコロナ前の日常の活動にほほ戻られました。しかしまだ困難なこともある中で、楽しくまた明るく振舞っておられる姿を今回の会報に収める事が出来、大変嬉しく思っております。

これからも今まで以上に当会らしい素晴らしく、そしておもしろい「Wind of Smile」を吹かせて頂きたいと思っております。

最後に年間3冊の会報を発行できたことに対して、会員みなさまのご協力に感謝申し上げます。

広報委員長 高橋 恵信